

(大治町)

市町村の 基本情報	学校数	小学校 3校	中学校 1校	
	地域学校協働 活動推進員等 の配置状況	統括的な地域学校協働活動推進員	0人	
		地域学校協働活動推進員	1人	
		統括コーディネーター	0人	
	地域コーディネーター	2人		
CS及び地域 学校協働本部 設置状況	CSを導入している学校数	小3校 4校合同で学校運営協議会を設置	中1校	
	地域学校協働本部がカバーしている学校数	小3校	中1校	



(活動の実際)

<地域連携子ども応援活動ネットワーク連絡会(地域学校協働本部)>

(目的) はるボラフレンズを中心に、学校 支援及び学校外の子ども支援に取り組む企業、各種団体、個人の緩やかなネットワークを作り、地域学校協働活動の推進を図る。

(活動内容) 毎年、情報交換や研修会を実施している。令和5年度は8月3日に連絡会を開催し、大治南小学校から、地域と協働で取り組んでいる防災教育についての活動事例発表があった。また、各種団体等の活動について情報交換も行った。

(活動で意識していること) ネットワーク参加者が相互理解を深めるとともに、地域と学校双方向の連携・協働になるように努める。

<はるボラフレンズ(学校支援地域本部)>

(目的) 学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子供たちを育てる体制を整えることを目的とし、地域の教育力の向上を目指す。

(活動内容) 授業サポート(家庭科実習、理科実験の準備、書写の指導補助、昔遊びの伝承等)、図書サポート(図書の整理整頓)、校外学習引率サポート、環境サポート(消毒作業、植栽、除草等)、その他(子供たちのためにできること)について、学校からの支援依頼を受けている。学校支援地域本部で参加希望者を募り、学校に紹介している。

(活動で意識していること) ボランティア一人一人に学校の仕組みや教育方針を理解していただき、自らできる人が、できるところから行っていただくようにしている。

<スタディサポートクラブ(SSC)(地域未来塾)>

※ 今年度で開始から8年目を迎えた。当初は中学校3年生を対象にしていたが、令和3年度から、参加対象を全学年の中学生の希望者として3年目を迎えている。

(目的) 家庭での学習が困難であったり、学習習慣や基礎学力が十分に身に付いていなかったりする中学生への学習支援をとおして、生徒自身が自らつまずきに気づき、主体的に学ぼうとする姿勢を育てる。また、生徒自身が学び残しの克服に努め、基礎基本の定着を図ることを目指す。

(活動内容) 参加者が、授業で使用している問題集や家庭学習用の問題集等を持参し、指導者に質問しながら自学自習をする。希望する生徒については、国語・英語・数学の基本的な学習内容(漢字や英単語の読み取り・書き取り、計算練習)のプリントを使い、反復練習を行う。

(◎成果と●課題)

◎地域連携子ども応援活動ネットワーク連絡会は、各団体の活動を紹介し合うことができ、イベント等においても協働するチャンスが生まれている。事例発表の機会は、活動のヒントを得たり、各自の活動を振り返ったりするよい機会になっている。

◎中学生としてSSCに参加した経験のある大学生が、ボランティア講師として参加してくれるようになり、よい循環ができています。地域の大人のボランティア講師も年々増加しており、生徒に対してきめ細かい対応ができるようになってきた。

●地域学校協働活動について、地域住民への周知は十分とは言えない。今後、町ホームページや広報等を利用して周知を図りたい。

(関係者の声)

- ・学校の子供や先生と多く関わることによってつながりができ、地域においても子供たちに声がかけやすくなった。(地域の方)
- ・学校支援やSSCに参加して、児童生徒と触れ合うことは、将来に向けてのよい経験になる。(大学生)
- ・SSCに参加して、分からない問題を丁寧に教えてもらえてよかった。家と違い集中して学習することができる。(生徒)